

令和元年十二月一日発行（毎月一回）
書象 第六十七巻 第十一号 通巻七六九号

書象



日本書道芸術協会
SHO JAPAN
設立1951年
代表理事 山本 浩二
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
電話 03-5561-1111
FAX 03-5561-1112
E-MAIL sho@sho-japan.com



日本書道芸術協会

2019-12

巻頭言

一年を振り返る

理事長 市澤 静山

今年も書象会はたくさんの方の活動を行って来た。毎年開催の各行事には、会員の皆様のご協力があり、担当者のご努力等により、期待通りの成果が得られた。

この一年の新しい試みを中心に印象に残ったことを次に述べたい。
五月末の中国行きは、張廉卿の故里鄂州市と「張裕釗文化園」からの招待を受けての鄂州訪問であった。私達の到着を待って、盛大な歓迎式典が開催となり、続いて席書会、廉卿作品及び資料等を拝見、そして上條信山作品と書象会幹部作品二十点が飾られていた。張廉卿書法の殿堂で展示され、寄贈するに至ったこと、その意義は大きいと感じた。

市内の中心にある「張裕釗陵園」は二十年前に建てた張裕釗先生之墓碑、書象会作品碑が並ぶ回廊、資料館等も昔のまま、感激の再会であった。この陵園は湖北省指定の文化財として認められ、駐車場、道路も新たに整備され、陵園の内外はよく清掃されていた。記念植樹した七十二本の桜も成長し、桜の名所として市民から親しまれていること、信山先生がなさった張裕釗陵園の建立の事業はますます中国の地で広く知られ、称賛されているのである。実に喜ばしい限りである。

書象学生展は今年から紙上展から書象本展と同時開催で行う展覧会に変わった。それに伴い表彰式を行うことになった。美術館講堂には定員を越える大勢の方が入場し盛大な式典となった。後の行事も続く過密な時間配分の中、担当の係の方々はしっかりと務めてくれた。

支部長講習会では「水書指導研修会」として、来年度より小学校書写で行われる水書用筆の学習を理解すること、そして実践することをねらいとした講習であったが、支部長の方々は水書筆の初体験に熱心に取り組まれていた。

後日、この研修会の推進母体である全日本書道連盟の理事会において、書象会の実践が報告され、学校以外の書道団体が開催したことに注目され、話題になったこともお伝えしたい。

元副会長の高田墨山先生が逝去されて三回忌にあたり「高田墨山遺墨展」を書象展の一室で開催した。師の書風追求に徹した墨山先生の作品は「信山流の良さはここだよ」と墨山作品のじみじみ、張りのある線が、スタイルのよい字形が、余白がそれぞれに私たちに語りかけるように示してくれていた。それはありし日の墨山先生揮毫の姿と重なっていた。

皆様のご一年のご協力に感謝し、ここに筆を置く。

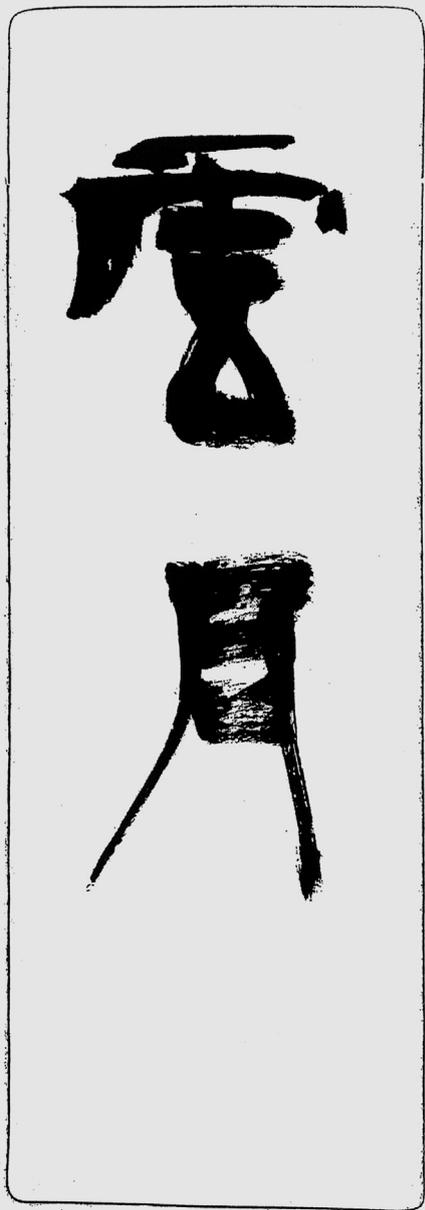
五月天山雪
無花祇有寒
笛中聞折柳
春色未曾看
晚戰隨金鼓
宵眠抱玉鞍
願將腰下劍
直為斬樓蘭

李白塞下曲

詠士書



宮島詠士先生書「李白塞下曲其一」



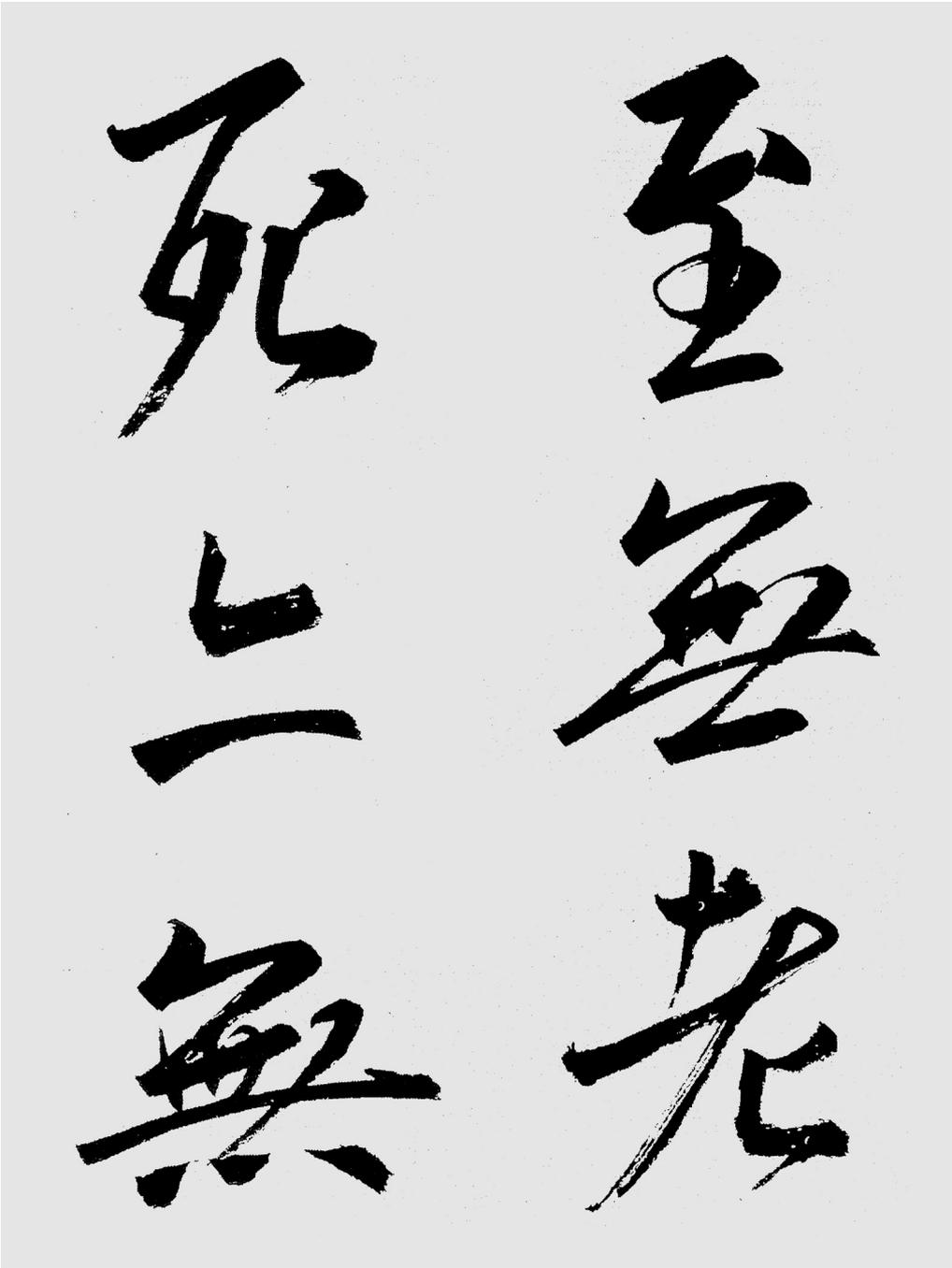
詩成って雲月に傲る

12月20日必着。入選作のみ発表します。出品券を貼付

行書臨書規定【臨規】（師範・準師範・段位）

集王聖教序

上條信山先生書



乃至老死も無く、亦（老死の尽くることも）無し。

12月20日必着
出品券を貼付



- ・各字の概形を把握する。
- ・筆順に注意して、筆脈を大切にす。
- ・文字中の空間の広さに注意する。



・「とめ」や「折れ」の部分で押しつけすぎず、行意を大切に
して伸びやかに書きたい。

無：横画の長さの違いに気をつけてリズムよくつなげたい。

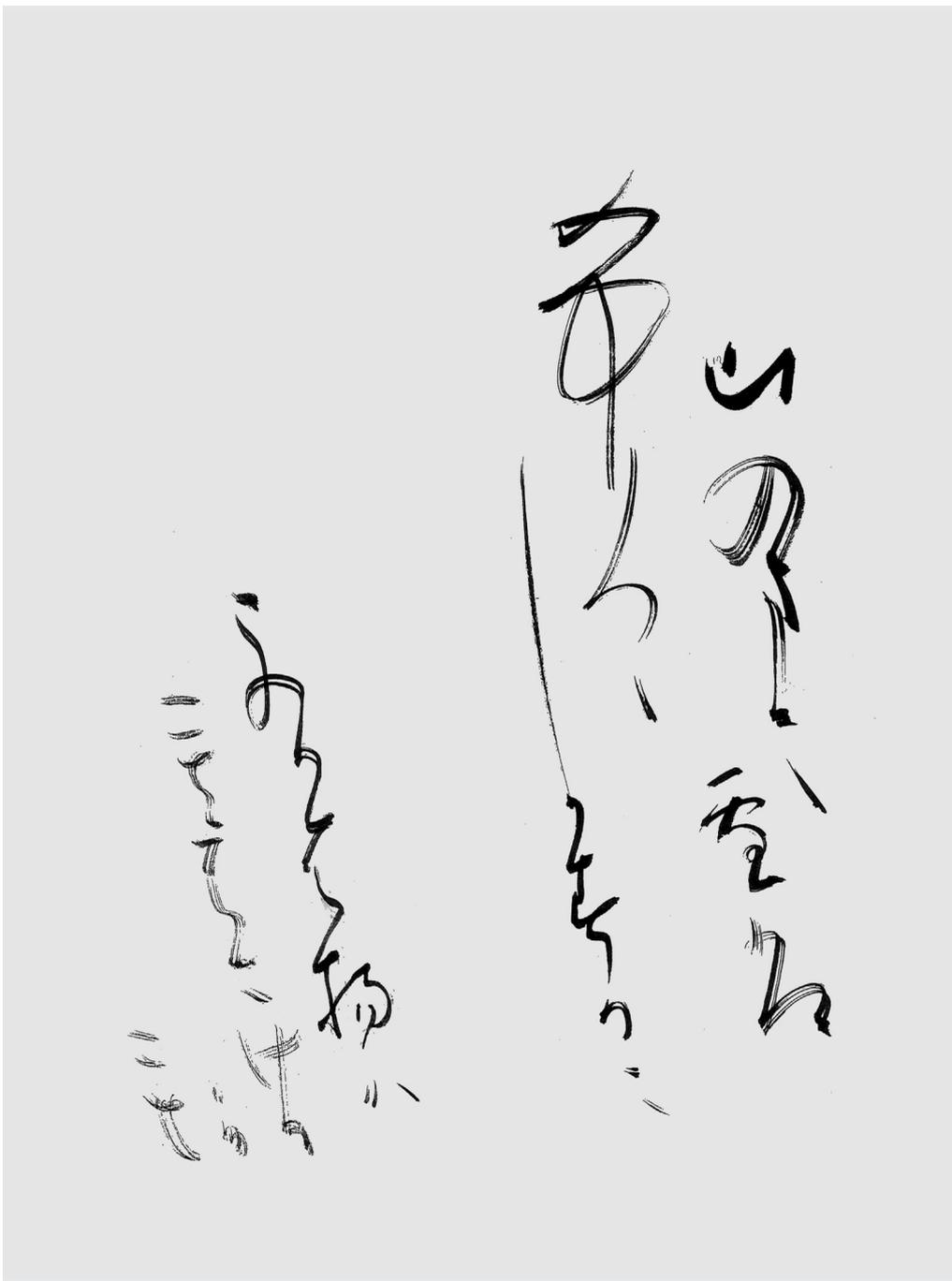


眼：偏と旁を調和させる。横画は右上り、空間を大切に。



仮名規定【仮規】（師範・準師範・段位）

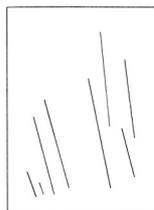
上條信山先生書



山(ま) (万)に (二) 雪(は) (盤)ふ (布)りつつしか(可)す (春)が(可)に(二)
 このか(可)は(者)楊(は) (八)も(毛)えに(二)けるか(可)も(毛) (万葉集)

12月20日必着
 出品券を貼付

・全体構成は左図参照。



・行の流れは右下へと向かう。流れの角度に注意する。

・線に抑揚をつけて、リズム良く運筆することを心がける。

「雪は(盤)」

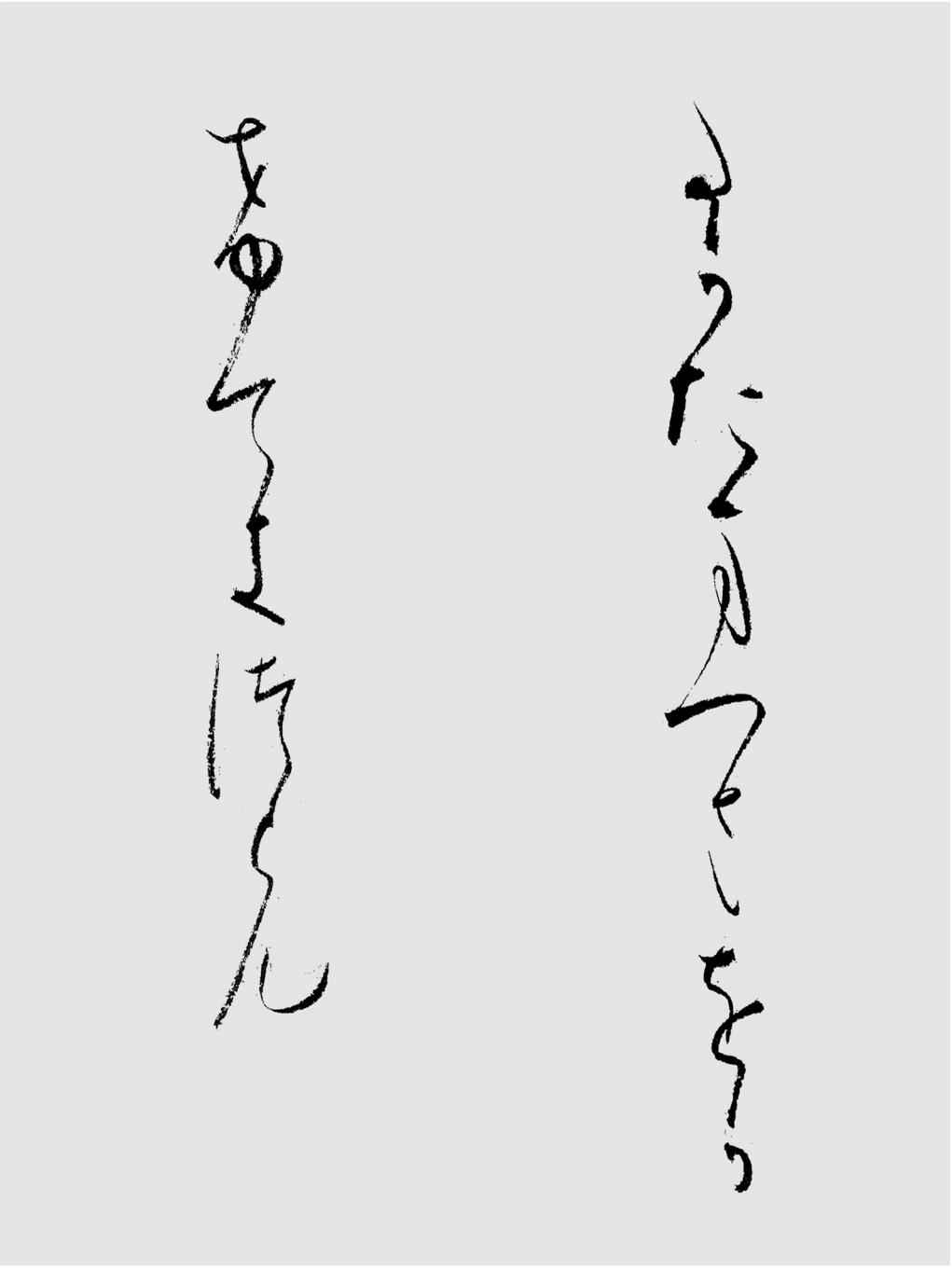
ふりつつ

「ふ(布)りつつ」

このか、可は、者、楊は、八も、毛えに、二けるか、可も、毛

「も(毛)えに(二)」

このか、可は、者、楊は、八も、毛えに、二けるか、可も、毛



た(多)が(可)たま(万)づさをか(可)け(希)てき(支)っ(徒)らん(友則)

- ・ 連綿線は仮名と同じ太さで書き、つながる方向にも気をつけたい。

- ・ 字幅の変化に注意して、行の流れを出す。

「け(希)てき(支)」



「っ(徒)らん」



初春の候 嚴寒のみぎり

余寒 立春 浅春 啓蟄

陽春 温暖 清明 新緑

若葉 薄暑 初夏 入梅

支部 氏名

初春の候 嚴寒のみぎり 余寒 立春 浅春 啓蟄
陽春 温暖 清明 新緑 若葉 薄暑 初夏 入梅

12月20日必着 出品券を貼付

入選作のみ発表します

・画数の少ない漢字や平仮名は、少し小さめに書くとバランスがよい。

・漢字を行書で書いてあるので、それに合わせてやわらかい平仮名を心がける。

・「春」「寒」など同じ文字が何度も出てくる時は、できるだけ書き方を変えてみる。

漢字条幅規定【条規】

田中節山先生書

段級位を明記のこと



日暮天無雲（陶淵明句）
日暮れて天に雲も無し

条幅随意【条随】

市澤静山先生書

入選作のみ発表します

出品券を貼付



陽平縣令衛安族 董文定
魯郡士望等 孔文愔
（張猛龍碑陰）

・墨量豊かに、大きな運筆を心がける。
・中心線、空間、行間を意識する。

流大河の

中学一年規定 【学毛】

荻田光山先生書

古建
物風子

中学二・三年規定 【学毛】

市澤静山先生書

立冬
与木

小学五年规定 【学毛】

大島校山先生書

去福
券引

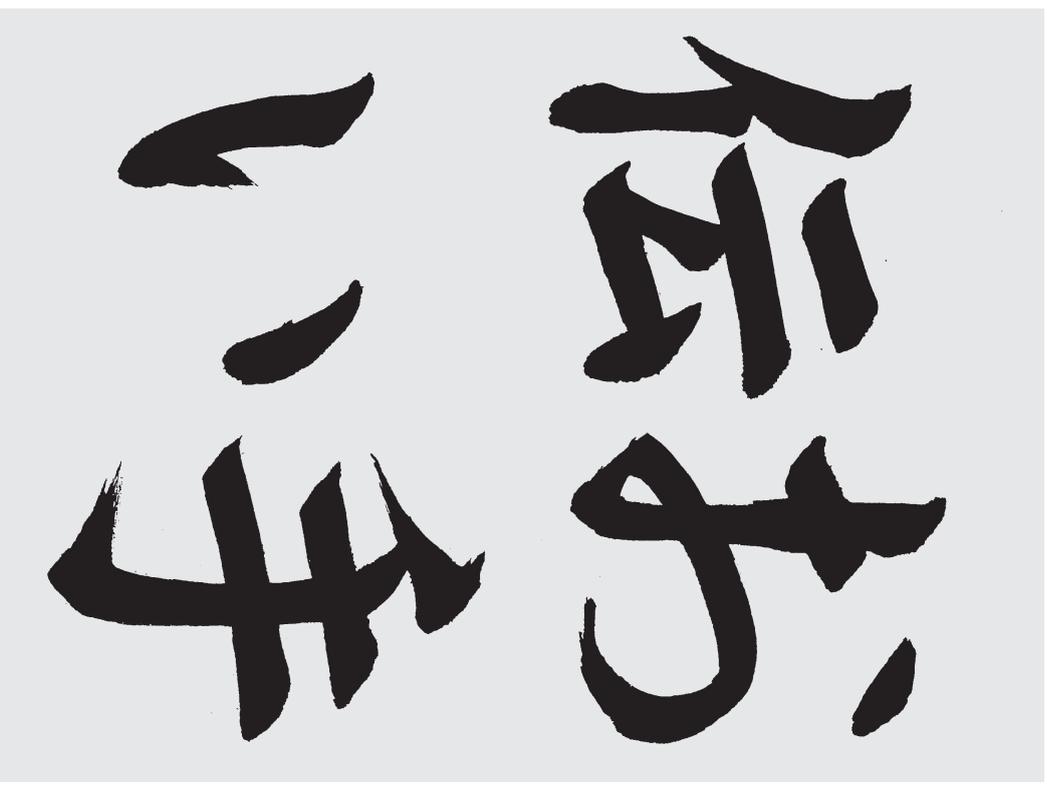
小学六年规定 【学毛】

杉山曉雲先生書



小学三年規定 【学毛】

恩田静月先生書



小学四年規定 【学毛】

柳澤玄嶽先生書



小学一年規定 【学毛】

畑中高山先生書



小学二年規定 【学毛】

小淵石峯先生書

硬筆規定

一般規定【一硬】(師範・準師範・段位)

上條 信山 先生 書

一つの芸術品の観察にふけるのは(ハ)我等が(可)知つてい(為)る中で、最も明(へら)か(可)な最も深いまた最も獨立した体験である。

一つの芸術品の観察に、ゆけるのは我等が最も深い知識を有する中で、最も明(へら)か(可)な最も深いまた最も獨立した体験である。

また最も深い知識を有する。

一般規定【一硬】(級位)

二瓶 嶽風 先生 書

だいたい私、若気の過ちを通過して、いない人間を信用しない性質なんで。山田詠美のことば

中学規定【学硬】

樋口 玄山 先生 書

冬至の日、風呂の湯にエズを浮かべる。これに入れば無病息災と伝えられる。

小・中学生随意課題【学随】

左の字句を半紙に書いてください。

表現自由。入選作のみ発表します。出品券を貼付して下さい。

小・二年 学	立	小・三年 学	書
小・五年 学	手紙	中 学	習熟

手本解説

・基本 「傲」「雲」は左図参照。

傲 雲

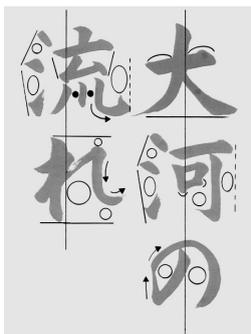
最 明 獨 立 佛 験

・硬筆一般規定(師範・準師範・段位)「最」「明」「獨立」「体験」は左図参照。

学生部規定



中学二・三年



中学一年

「古」の口は中心からずれないように。「風」は虫が凡の下へ出ないように注意する。「な」は筆脈を意識し、「建」の事は中心よりやや右側に配置する。「物」の旁は払いの方向に気をつける。

「大」は左右の払いを伸びやかに。「河」は口をほぼ中心線上に配置。「の」は中心線上から書き始める。「流」の「」は幅を狭くし曲がりのはねの上部はあける。「れ」は三か所の折れを丁寧に書く。

コップや茶わんなど、食器
には円柱形や円すい形に近
いものが多い。

名前

支部 年 級段

学校の近くにある温室で
は、冬でもきれいな花が
さいています。

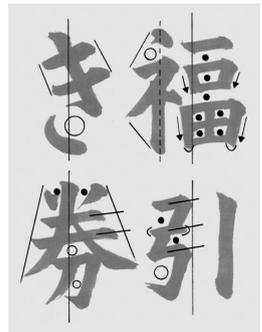
名前

支部 年 級段

を	も	お		なまえ	支部	年	だゆう きゆう
し	べ	か					
ま	や	あ					
す	の	さん					
	大	と					
	そ	子					
	う	じ					
	じ	ど					

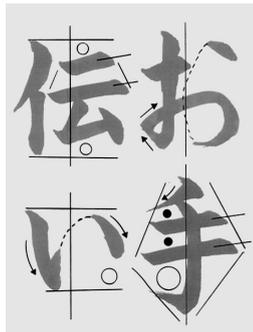
※出品券を貼付して下さい。

一般(師範・準師範・段位)・一般(級位)・中学生はペン使用のこと(中学生は鉛筆も可)。小学生は鉛筆使用のこと。
作品の大きさを下で18cmよこ7cm小一・二課題↓2.1cmのマス目の紙を使用する。小三・四・五・六課題↓2.1cm巾の罫線を引く。



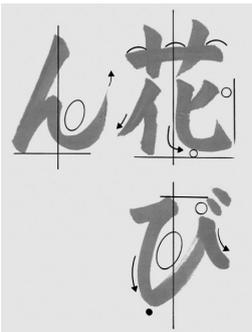
小学六年

「福」は隣の横画の間を等間隔に。「引」の最終画は偏との調和を考えて軽く止める。「券」は三画目から四画目への筆脈を意識する。「券」は左右の払いを伸びやかに書き、刀を小さめにまとめる。



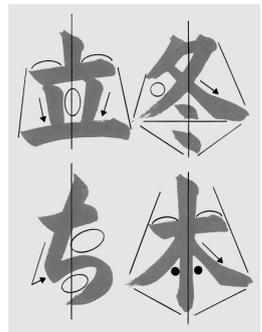
小学四年

「お」は大きく回る線の角度に注意する。「手」の四画目は右にふくらみを持たせ、下部の余白は広く。「伝」は云の上下に余白をとるバランスで書く。「い」の向かい合う線にはやや丸みをつける。



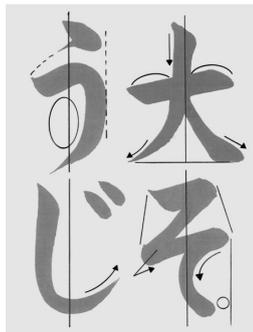
小学二年

「花」は上下の組みあわせ方、最終画の曲がりの方向に気をつける。「び」は、で軽く止め、ふくらむように右上へ。「ん」の二つ目の折れはほぼ中心に。



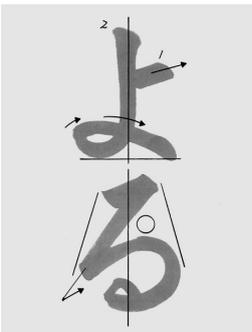
小学五年

「冬」の四画目は左右の払いの中に収める。「木」の左右の払いは伸びやかに書き、最大幅とする。「立」の三、四画目は内側に向ける。「ち」の二画目縦部は左にふくらみを持たせる。



小学三年

「大」の二画目は横画と交差してから下に払い始める。「そ」は折れの筆使いが重要。「う」は縦長の形を意識する。「じ」は中心より左から書き始め、丸みをつけて右上に抜く。



小学一年

「よ」の一画目はやや右上がり。二画目はほぼ中心から書き始め、最後は横広に結ぶ。「る」の外形は三角形を意識し、最後は中心線上で結ぶ。

古典研究シリーズ ④38 【古典】

曹 全 碑

後漢・中平二年（一八五年）

今月のテーマ

表現的臨書

※8月号の写実的臨書で掲載した部分です。



書き方

- ①文字数は自由。左記の中より選んで書いて下さい。
- ②落款を入れて下さい。
- ③作品の表左下に、支部名と氏名、又は号を鉛筆で記入して下さい。古典研究の出品券を貼付して下さい。（編集部）

表現的臨書：線に主観を加える。

〈手順〉①最初に写実的臨書を何回も繰り返し、

徹底的に「形」に迫る。

②形が把握できたら、その形を守って

線に作者の意志を働かせ、線表現を

試みる。

〈方法〉A、運筆に変化を与える。

・筆圧を加える。

・遅速緩急をつける

・細太、強弱をつける。

B、筆の種類を変える。

・短鋒、中鋒、長鋒、羊毛、兼毫、

剛毛、鶏毛、竹筆など使ってみる。

C、墨色を工夫する。

・濃墨、淡墨、にじみ、かすれを効

果的にする。

D、様々な用紙を用いる。

・厚め、薄め、つるつる面、ざらざ

ら面、染紙など使ってみる。

※試行錯誤を繰り返し、新しい線表現を

試みて下さい。

※参考―現代臨書大系（小学館）

爲治中別駕。紀綱萬里。朱紫不謬。出典諸郡。彈枉糾邪。貪暴洗心。同僚服

「上條信山近作選 (一九八三年)」その2

④ 仏心鬼手 (一九六九年 現代書道二十人展)

書き出し「仏」字の軽妙な縦画が印象的である。上部の潤筆から颯爽と抜き出した三本の渴筆は大変伸びやかで、実に美しい。その渴筆の筆勢を受けて「心鬼」が瞬時の呼応を見せて快い。太めの剛健な筆致でこの作品のポイントとしている。末字「手」を小振りに納めて全体を引き締めている。四字の線の方向性を駆使されていて味わい深い。



⑤ 天下帰心



⑥ 高風



⑦ 相忘



⑧ 心花



⑤ 天下帰心 (一九七〇年 現代書道二十人展)

いくつかの文字を集合させた大胆な作品構成である。よく見ると篆書体の四文字が判明する。半切1/2大の用紙であるが、実にスケールの大きい表現である。濃墨で潤渴の変化を鮮明に示して明るい。スピードに乗じて一気呵成に運筆される強靱な線と曲直の交錯した線構成が楽しい。超現代的な作品。

⑥ 高風 (一九七四年 毎日書道展)

少字数作品では初期の発表作。先生自身ご満足の一作であった。向背両極の文字構成で緊密度を高めている。潤渴の変化の対比も自然で視覚的な効果も高い。二字の配置と左右上下の余白に至るまでよく計算されている。安定感と共に豊潤で躍動感のある代表作。

⑦ 相忘 (一九七九年 日展出品)

縦九〇cm、横一六四cm、日展役員規定のサイズ。作品構成の大胆さが目を引く。二字の上部を上半分に置き、しかも二字の上部は切り取るかのように用紙外に出ていて見えない。大変斬新な発想であり、日展という会場での思い切った表現である。この作品最高の見せ場は忘の「心」のダイナミックな筆遣いである。線の強靱さ、切れ味、スピード感は実に圧巻で人々を驚かせた。

⑧ 心花 (一九八〇年 日展入場券)

第十二回日展入場券となった小品。見るからにスッキリして爽やかで清々しい。字形、線質、墨色、区画された余白の白の部分がそうさせている。信山先生の繊細な造形感覚が小品ながらギュッと凝縮された傑作。人の心の美しさというものを表現したいとの願いを込めて「心花」と書き上げられたようです。

(理事長代行 内藤望山)

令和元年度

玄墨会講習会

期 日 九月二十九日
会 場 あこや会館（山形市）

今年度も五年連続で副理事長の樋口玄山先生を講師に迎えて、山形玄墨会の講習会を実施しました。

これまでの講習会での学習を引き継ぎながら新たな内容になるように、今年度は各自が書象誌九月号の課題「化度寺碑」と「隸書条幅」を書いて持参することになりました。講習会の冒頭に受講者の作品を見ながら、文字の大きさや位置、字間や中心の取り方や点画などについてご指導をいただきました。自分の作品だけでなく多くの作品を見ることで、様々な視点から学ぶことができ大変勉強になりました。その後は時間で区分するのではなく、半紙をやる方、条幅五言句の作品作りに取り組む方に分かれて、集中して書き込みました。今回は、最初から手本を

見て書くのではなく、好きな五言句を自分で工夫して書くことから始め、その後先生から墨量や字間の取り方、行の流れなどのアドバイスをいただくという進め方で練習しました。最後に全員の作品を見ながら、良くなったところなどの指導をいただきました。

五年連続という学びの系統性を受け継ぎながらも、これまで以上に主体的な研修となり、自信を持って今後の作品づくりや毎月の競書出品に生かしていきたいのではないかと思っています。午前三時間、午後三時間があったという間に過ぎてしまったと感じる講習会でした。

（八矢好嶽記）



書象誌の課題を丁寧に添削



楷書の筆遣いに見入る



真剣な眼差しの会員の皆さん



参加者全員で作品鑑賞

第44回玄墨展

会期 十月四日(金)～六日(日)
 会場 山形県芸文美術館ギャラリー1
 主催 書象会山形県支部玄墨会

爽やかな秋晴れの三日間、標記の会場にて、第四十四回玄墨展を開催しました。会場は明るく広々としたスペースで大きささまざまな作品が、バランスよく展示されました。書象会理事長市澤静山先生からは特別出品をいただき、感謝申し上げます。

玄墨会では、毎年総会の折に信山先生の書や筆法を学ぶ研修会や、本部の先生をお招きして臨書や信山バリの基本、作品の作り方の実技講習会を行っています。

玄墨展は、このような研修や各々の日頃の錬成の成果の発表の場として、毎年開催しています。作品は楷、行、隸の漢字作品に仮名、調和体、刻字と多岐にわたり、参観者を楽しませることができたのではないかと思います。信山バリの直線的な美は、実にはさすがに心が引き締まる思いがします。

まだまだ未熟な作品ばかりですが、今後とも精進研鑽して参りますので、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。
 (小林皓山 記)



バラエティーに富んだ作品群



結城正憲会長（前列右から2人目）を囲んで

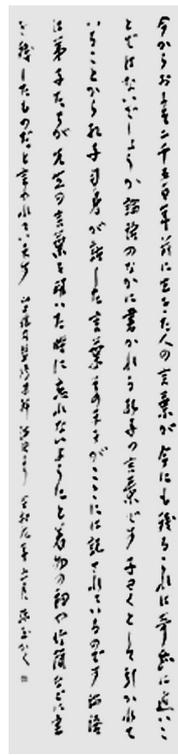
第36回読売書法展

—— 本格的輝き ——

関西展 理事 畑中高山



関西展 理事 藤澤珠玉



中国展 理事 石丸暁風



九州展 理事 原 秀石



—文化講演会—

『書写書道教育と芸術としての書』

期 日 九月八日 (日)
会 場 学士会館

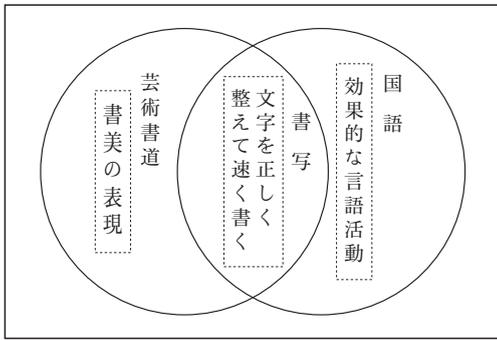
日本書道学院(学院長石川芳雲先生)の師範認定証授与式と併せて学院の全国会員大会が、去る九月八日(日)神田の学士会館で行われました。授与式・総会に続き行われた文化講演会で、本会の露崎玄峯先生が「書写書道教育と芸術としての書」について話されました。上條先生の「新書写書教育事典」を引用しながら、「書写と書道」「書とは」「書の性格」「古典学習の大切さ」を解説、また「作品制作」については、調和体作品を展示しながらの講演でした。学院の競書雑誌「書の光」にも掲載されました。講演内容の抜粋と参加者の感想文を紹介します。

〈講演内容〉

一、書写と書道

『書写』は、国語科の言語事項に属し「文字を正しく整えて速く書く」ことを目的とする。

『芸術書道』は「書美の表現」を目的とする。

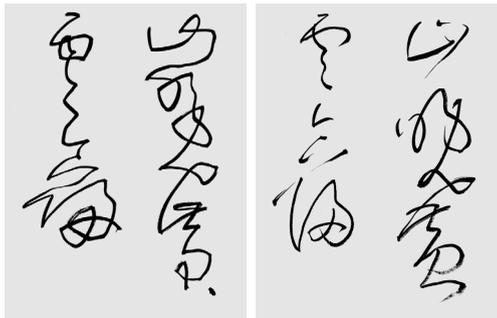


書写と芸術書道の目標の違い



臨書の折帖を手に説明

村上三島先生による王鐸の「擬山園帖」臨書作品



羊毛筆で連綿を多用した「表現的臨書」

リス毛筆を使い細い線で書いた「写實的臨書」



唐の四大家の書風で書き比べた作品

- 二、書とは
 - 文字を素材として、芸術的な意志を働かせて生命のやどったもの
 - 視覚化で大切なこと
 - ・書体と書風を決める
 - ・主題性を考える
 - ・用具の選択
 - ・書的基本的性格(文字性、時間性、空間性、潤濁と濃淡、遅速緩急)
- 三、現代臨書体系(小学館)の村上三島先生の臨書の紹介
- 四、古典学習の大切さ
- 五、「卒意の書の素晴らしさ」と「調和体の書」
 - 蘭亭叙、争坐位稿、風信帖、会津八一の書、良寛の手紙など
- 六、調和体の創作(展示と解説)
 - 古典を生かす創作(唐の四大家の書風で書く調和体：半切作品)
 - 主題を持った創作(形の変化・墨色の変化：二尺八尺の作品)

「書写書道教育と芸術としての『書』」を聴講して

日本書道学院 大阪 土井 芝風

全国会員大会では、露崎先生による「書写書道教育と芸術としての『書』」の講演を拝聴しました。小学校では硬筆と毛筆で文字を正しく整えて書くことを学びますが、書道においても絶えずそのことを疎かにせず、基本としなければならぬと思います。昇格試験ではよく誤字が多いとおしかりを受けますが、これは絶対防がなければなりません。必ず字典で調べ、また師匠に確認して頂くことも必要だと思います。整えて書くには、字形、大きさ、余白や作品が主張するテーマを視覚化するための工夫が必要でしょう。王鐸擬山園帖村上三島先生の印象的臨書、写実的臨書、表現的臨書は、一貫した臨書の意図によって作風が全く変わることを学びました。従来は法帖の文字の形を形臨することに終始し、意図した臨書には至っていなかったと思います。創作に繋がる色々な勉強法があることを学び、ぜひ実践していきたいと思いました。

ご講義の後半には、馴染みのお店に贈られた猫の絵が描かれた「瑞色鮮」の色紙や山頭火「星があつて男と女」を題材に、多彩な作風をご紹介頂きました。意図する作風を表現するには、古典の臨書によって色々な引き出しを用意しておくことが大切ですし、共感を呼ぶ作品にするには、何を書くかよく考え、自分が選んだ題材にすることが重要だと思いました。卒意の書が素晴らしいのは、これらが備わっているからではないでしょうか。

(以下略)



前列中央が学院長石川芳雲先生。右露崎先生

ひらがな・かきかたコンクール

文部科学大臣賞受賞おめでとう！

第8回全国書写書道総合大会のひらがな・かきかたコンクール（日本書字文化協会、文字・活字文化推進機構主催）において、秀雪支部の池田乃彩さんが文部科学大臣賞に輝きました。この賞は応募総数三八〇九点の中で最優秀作品に贈られるものです。



小3 池田乃彩

わたしは、ようち園の年中の時に、こうひつを習い始めました。はじめはおけいこに行っても、先生に出されたかだいをしているだけでした。だからあまり上手にならなかったで、おけいこをやめてもいいかなとお母さんは思っていたみたいでした。

小学校になって、ようち園の時よりも字を書くことがふえて、自分の名前が上手に書けるようになりたい、苦手な字が上手になりたいと思うようになり、家で何回も練習しました。たくさん練習したら前よりも上手になることがうれしくて楽しくなりました。その練習の成が出たのか、2年生の時にひらがな・かきかたコンクールで、全日本書写教育研究会賞をとることができました。

そして、今年は、文部科学大臣賞というすばらしい賞をいただけでとてもうれしいです。これからも練習を重ねて、もっと字が上手になりたいです。次は、毛ひつで賞をとることを目指ようがんばります。

支部長先生からのお祝いの言葉

乃彩さんは聖徳大学付属浦安幼稚園の年中さんの頃より、書道教室にて硬筆の学習を進めてきました。

『ひらがな・かきかたコンクール』は3年生が出品できる最終学年なので、お稽古場だけでなく家でも練習を繰り返して、添削を受けては清書用紙に取り組んでいました。上手にかけたねと声をかけても、「この字のこが気に入らない」と細部まで納得できるまで書き続け、諦めませんでした。

乃彩さんの良い意味での「こだわる力」が文部科学大臣賞に結びついたのだと思います。これからも向上心を持ち続け頑張ってください。

(桑島秀雪記)

藤森博士の漢字表記にももの申す⑮

書道学博士 藤森大節

大規模な河川の氾濫を引き起こした台風十九号。関東、甲信、東北地方の被害は甚大でした。一日でも早い復興を祈念することにも、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

そんな中、ブレイブ・ブロッサムこと、ラグビー日本代表が初の決勝トーナメント進出を果たし、日本中に勇気と希望を与えてくれたのは記憶に新しいでしょう。南アフリカとの準々決勝に敗れた日本ですが、開催国としての計り知れないプレッシャーがかかる中、見事ベスト8という高成績を収めました。

私もいわゆる「にわかファン」として、テレビの前でラグビー日本代表を応援しました。試合前のウォーミングアップ時に選手が着用していたジャージの背中に、筆文字で書かれた「日本」の文字がプリントされていたことにお気づきでしょうか？通常アルファベットで表記するところ、開催国ということで漢字表記になったそうです。デザインされたアルファベットの「JAPAN」も良いですが、筆文字による漢字で表記された「日本」の方が日本人としては心に響くものがあります。この力強い文字は日本の躍進の象徴として世界に発信されたことでしょうか。



この文字の揮毫者は「戦士が背負う」日本。強いイメージがないといけない」と力を込めて書いたと述べています。線が太く、ハネ、払いを強調した書きぶり、意図したとおり、力強さが感じられます。これは中国、北魏時代の「造像記」を基盤としており、古典の伝統を踏まえた表現なのです。

その中で気になる箇所がありました。

「日」の二画目は通常「横画」↓「折れ」

↓「縦画」の順に書きますが、ここではその連続した筆使いが切り離されています。書写の基準から言えば、点画の接し方は一、二画目の始筆が離れることは許容されませんが、折れを二画に書き分け、

かつ離すのは運筆上不自然であり、それによって生じる画数の増加も合理的ではありません。ちなみに先に述べた「造像記」には、筆使いの共通点は認められますが、離している字例は確認できないことから、伝統的な書道の書き方でもありません。この特殊な書き方を真似る人はいないと思いますが、視覚的效果を狙った、デザインの要素だと捉えるべきでしょう。

ネット上ではこの見慣れない書き方について、アルファベットの「E」や「I」、「J」にも見えると深読みする人もいたようです。正解は揮毫者のみぞ知る訳ですが、文字に想いを託したり、書かれた文字からその意図を思索したりする心理は漢字文化圏特有のものではないでしょうか？



高樹解侶都造像記



ラグビー日本代表の「日本」

書象会通信条幅研究会課題の解説（令和元年十一月～令和二年一月まで）

信山流

文字の中心を垂直に貫通させます。各文字の中心がどこにあるか見極めておきましょう。

- ・寒：左右の払いの終筆の高さに注意。
- ・月：二つの点を高い位置に置くと脚を長く見せられます。
- ・逐：斜画四本、よく見えませんが一本目の斜画も軽く意識します。
- ・波：皮の第一画は垂直方向に。
- ・流：ツクリの上部の点は省略した形です。



隷書

隷書は篆書の点画が直線化され簡略化されて生まれた書体です。それは、扁平な構造をとることに大きな特徴があり、左右に広がりを見せています。

注意点

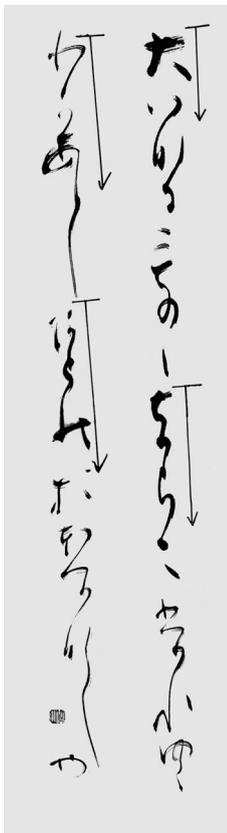
- ・起筆は逆筆を使い線の中心を穂先が通る。
- ・横画は水平、平行。
- ・形に華やかさや重厚感を持たせる装飾として波磔を付けることがある。
- ・一字に波磔は一つ、むやみに波磔を付けると騒がしくなり装飾としても逆効果となる。

初心者の方は

上條信山著「篆隷編・書法基本帖」をお薦めします。（本部にて販売）

仮名

潤渾のバランスの良い減り張りの効いた、流麗な手本です。含墨は「大い…」「ちか（可）…」「あ（阿）と…」で行い、その都度右下への流れの行立てを意識します。信山流仮名の独特の線質は、筆先を大胆に開くことです。その開いた筆先どの部分をどんな形にしてどのように遣うのか、大いに研究して魅力的な線質を会得してください。



特待生紹介

(学年は試験合格時のものです。)



感謝

折原支部 中三

秋保 由菜

小学三年生から書道を始め、ついに念願の特待生になることができてとても嬉しく思います。このような結果を出せたのは、ご指導して下さった先生のおかげです。

支部長先生より一言 目標達成おめでとう。部活との両立が大変な中で念願の特待生になり、今後の活躍も期待しています。



特待生になって

中野支部 中三

外山 倅誠

僕は、小学四年から通いました。最初は上手に書けませんでした。でも丁寧に教えてくださった先生のおかげで、今回の特待生という資格を取る事ができました。本当にありがとうございます。

支部長先生より一言 合格おめでとう。努力を重ねてきた結果ですね。これからもさらに上を目指して頑張りますよ。



感謝

蔵支部 中三

三島 萌香

小学二年生の頃から習字を始め、やっと特待生になりました。中学生生活は毎日忙しかったけれど、いつも熱心にご指導して下さる先生や、仲間、両親がいたのでここまでできました。本当にありがとうございます。

支部長先生より一言 可愛いかった萌香さんがいつの間にか大きくなりました。黙々と真剣に書く姿は立派です。



目標達成

源創支部 中二

中井 美彩

私は、小学二年生から書道を始め、目標であった特待生にやっとなることができて、とても嬉しいです。いつも熱心に温かく教えて下さった浜田先生、本当にありがとうございます。続けてよかったです。

支部長先生より一言 いつも落ち着いて、丁寧にゆっくり運筆し、納得出来るまで練習した成果です。合格おめでとう。



感謝

有象会支部 中三

森高 苺絵

私は小学校一年生のときから習字を習い始めました。最初の頃は、正しい姿勢で筆を持つのも大変でした。今では特待生になることができ、続けてきて良かったと実感しています。先生ありがとうございます。

支部長先生より一言 おめでとう！三人姉妹のお姉さん、忙しい学校生活の中、休むことなく確実に力をつけました。V！



努力の結果

皓花支部 中一

中本 美咲

小学一年生のときから習いはじめて、ついに特待生になることができました。いろいろな努力したかいがあり、一回で合格できてうれしかったです。硬筆も特待生目指して頑張りたいです。

支部長先生より一言 紙面いっぱい墨量豊かで伸びやかな線が、美咲ちゃんの字の魅力です。合格おめでとう。



左利きを直したい！

有象会支部 中二

五十嵐 千尋

幼稚園の年少から始めて十一年目。左利きを直す所からはじめた自分がかまえてこれるとは思っていませんでした。いつも丁寧に教えて下さる先生には感謝しありません。次は硬筆の特待生になるため頑張ろうと思います。

支部長先生より一言 おめでとう！左利きでしたね。良く努力してくれました。今では力強い字を書きます。硬筆もあと少し！



夢の特待生

照澤支部 中三

小松 百恵

私は、小さい頃から特待生になるのが夢だったので今回なれてとても嬉しかったです。なることができたのは先生の熱心な指導と送り迎えを毎日してくれた親のおかげだと思います。本当に、感謝しています。

支部長先生より一言 パレーポールで県大会に出場。部活と書道の両立は大変なことでした。意志の強さに感心しています。



二冠達成

瑞祥支部 中三

津秋 帆希

今回、毛筆に続き、硬筆でも特待生になることができてとてもうれしいです。ここまで続けてこられたのは支えて下さった先生や両親のおかげです。これから書道の魅力が伝わるような作品を書けるようになりたいです。

支部長先生より一言 目標達成、おめでとう！/今後とも真摯に向き合う姿勢で奥深い書の道を極めて下さい。期待しています！！

特待生紹介

(学年は試験合格時のものです。)



目標達成

竹華支部 中三

小林 琉月

特待生になるということは、習字を始めた時からの大きな目標でした。その目標を達成でき、嬉しい気持ちでいっぱいです。今後も習字を楽しむことを忘れずに、新たな目標に向かって日々精進していきたいと思っています。

支部長先生より一言 静かで落ち着いた生徒です。学校でも書道部で活躍成果を上げています。人生に彩りを添える事でしょう。

特待生になって

高社支部 中三

大矢 優奈

私は、小学生の時から習字を続けてきました。今回、毛筆、硬筆それぞれで特待生になれてとても嬉しいです。特待生になれたのは、指導して下さった先生のおかげだと思えます。本当に感謝しています。

支部長先生より一言 正しい姿勢で且つ落ち着いた気分です。書く作品は毎回とても美しい。今後も皆のお手本でいて下さいね。

感謝

高社支部 中三

清水 大幹



僕が小学一年生から習字を始めて、今の中三でやっと硬筆の特待生になれてうれいす。

ここまで成長させてくれた先生に感謝してこれからも続けていきたいと思えます。

支部長先生より一言 二冠を達成しました。部活動で疲れた後も良く頑張りました。成し遂げようとする君の力を感しました。



憧れ

サン支部 中一

松尾 知聖

私にとって、特待生は憧れでした。幼稚園の頃から始めた書道は、うまく書けなくて、嫌になることもあったけど、ここまで来られたのは、先生と家族のお陰です。まだ毛筆の特待生がとれていないので、頑張りたいです。

支部長先生より一言 令和元年に希望の中学、特待生合格と良い記念になりました。今後も素直さ集集中力で毛筆も頑張ってください。

感謝

汀楓支部 中二

田中 龍空



僕は、小学二年から習い始め、今回特待生になれてうれいすと思えます。特待生になれたのも、先生の御指導と親の支えがあったからです。感謝を忘れず、硬筆も特待生になれるようがんばります。

支部長先生より一言 合格おめでとう。中学生になってからの上達ぶりに感心しています。硬筆も頑張ってください。

努力の大切さ

名東支部 中三

澁谷 遥



私は小学四年生の時に習字を習い始めました。先生の指導が分かりやすく、字を書くことが好きになりました。そして、毎回丁寧に書くよう心掛けて一枚一枚一生懸命書いています。これからも努力を忘れず頑張りたいです。

支部長先生より一言 硬筆合格おめでとう。中学生になってグングン上達してきました。次は毛筆ですね、合格できますヨ。



特待生になって

高社支部 中二

坂田 祐佳

私は小学一年から習字を始めました。始めてから毎週決められた枚数を先生に言われたことを意識しながらやっておかげで特待生になりました。硬筆も頑張ります。先生、これからもご指導をお願いします。

支部長先生より一言 線質が良いのに加えて、言われたことを素直に聞ける姿に感心しています。硬筆も頑張ってくださいね。

あの一回のチャンス！

名東支部 中三

池上 愛莉



私は小学二年生から習字を習い始めて、今年やっと目標としていた毛筆の特待生になることができました。硬筆では、あと一回チャンスがあるので、これからも努力していきたいと思えます。

支部長先生より一言 毛筆合格おめでとう！先を考え行動がテキパキとし、センス良く書きあげます。今後も期待しています。

念願の特待生

霞墨支部 中三

島田 侑依



私は、小学六年生から中三までの四年間で目標を達成することができました。今まで先生や家族の支えがあったからこそ目標を達成することができて嬉しいです。有難うございました。硬筆も頑張りたいと思えます。

支部長先生より一言 努力は、決して裏切らないです。本当に頑張りました。今の気持ちを忘れずにね。おめでとう。

特待生紹介

(学年は試験合格時のものです。)

特待生になって



高社支部 中三
小山 晋平

私は、小学一年生から書道を始め、硬筆で特待生になることが出来とても嬉しいです。支えてくれた先生や家族にとっても感謝しています。毛筆も特待生になれるようにこれからも努力していきます。
支部長先生より一言 晋ちゃんの合格をずっと待っていました。とても嬉しいです。良く頑張りました。この調子で毛筆も！

感謝



霞墨支部 中二
吉原 優衣

私は小学三年生から書道を始めて五年がたちました。今まで目標としていた特待生になることができてとてもうれしいです。今まで支えてくれた先生や家族には感謝の気持ちでいっぱいです。
支部長先生より一言 時間をかけて、じっくりと書く姿は大人と同じですばらしいですよ。この調子ですよ。おめでとう。

書道を続けてきて



高社支部 中二
増田 真奈

私は、小一から書道を習っていて硬筆が合格したときは、本当に嬉しかったです。中学生になってからは、勉強・部活との両立が大変でしたが、先生が優しく教えてくださるので続けられました。毛筆も頑張りたいです。
支部長先生より一言 部活動で忙しい中も良く頑張りました。何事も懸命に取り組むことが出来る真奈ちゃん。応援しています。

感謝



土筆支部 中三
和田 美颯

硬筆続き、毛筆も特待生になることができとても嬉しく思います。優しく指導して下さいました宮寺先生には感謝しています。これからも毛筆、硬筆ともに精進していきたいと思っています。
支部長先生より一言 念願の二冠達成、おめでとう。美颯さんの努力を讃えたいと思います。今後の活躍を願っています。

二冠めがけ



霞墨支部 中二
山崎 歌音

私が特待生になれたのは、先生方の指導のおかげです。そしてがんばった自分へのこぼれご褒美だと思います。硬筆も合格するように二冠をめざしたいです。
支部長先生より一言 遅くまで、頑張った結果の勝利ですね。これからも、いっぱいこぼれご褒美があるといいね。おめでとう。

念願叶う



須坂支部 中三
高橋 大和

小学一年生から始め、「特待生」という大きな目標を達成でき、とても嬉しいです。この特待生になれたのは、熱心に指導してくださいました先生と応援してくれた家族のおかげです。本当にありがとうございます。
支部長先生より一言 家族の送迎があつてこそその努力の結晶でしたね。部活も終え、今後は自己の進路に向け集中してください。

特待生になって



土筆支部 中三
西村 琴美

私は、小学校二年生の時から書道を始めました。先生には丁寧に分かりやすくご指導をいただき、硬筆の特待生という称号を頂けることができました。これからも上手に書けるよう日々努力していきます。
支部長先生より一言 硬筆合格おめでとう！特待生への長い道のりを良く登りつめました。次は毛筆、頑張らしましょう。

目標達成



大阪支部 中三
多田 秀士

小学校一年の時に習字を始めて以来、特待生になることが一つの目標だったので、とても嬉しいです。今回は硬筆だったので次は毛筆を頑張りたいです。先生、今までありがとうございます。
支部長先生より一言 お友達がやめても、水泳のため一時中断しても、淡々とお稽古してきました。おめでとう。期待しています。

支えられて

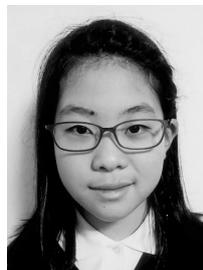


名東支部 中三
落合 里名

周りよりもだいぶ遅く小学五年生から習字を始め、今回の試験で念願の特待生になることができました。指導して下さいました先生、そして両親に感謝です。今よりもさらに綺麗な字を書ける様に精進したいと思います。
支部長先生より一言 書家誌九月号の試験特集の写真は、今までの努力の集大成。見事です。合格おめでとう！！

少年少女のページ 「わたしの会の仲間達」

杉月支部 小六 大森 由葵



由葵さんの集中力は素晴らしい形をしっかりとつかみ書き上げます。お稽古の日は友達と宿題を済ませて楽しく笑顔いっぱい教室に！。

練馬支部 小五 与那城 舞



手本を細部までよく見て、力強い線質で堂々と書きあげます。他にもバレエ、英語、ピアノ等前向きに取り組む、将来がとても楽しみです。お子様です。

杉月支部 小六 増田 れん



二人姉妹で教室の生徒さんノビアノもお習字も頑張っています。妹に声をかけてから、自分の練習に入るしっかり者。几帳面な字に花丸です。

美菜支部 小四 上原 侑芽



遠路、お母さんの送迎でお稽古に通って来ます。礼儀正しくお稽古熱心な侑芽ちゃんです。のびのびとした線質はみごとです。これからが楽しみです。

高社支部 中一 徳 竹 亜巳



笑顔が可愛らしくて素直でしっかり者の亜巳さん。全国大会に出場しているスキー部に入部し練習は大変ですが、学業も書道も良く頑張りが感じています。

杉月支部 中三 中山 太陽



県の書初め展で特別賞を受賞。野球はクラブチームで勝ち進み九州へ。町内文化祭では力作を出品。祖父母や両親皆さんの応援の輪が広がります。

伊奈支部 中一 谷口 恵音



姉の心音ちゃんは左利きですが、練習を積み重ね右手で上手に書いています。弟の恵音君は何事にもポジティブ。失敗しても次へ次へと沢山練習します。

練馬支部 小六 福井 舞花



学校では代表委員や生活団の団長を務める活発で頼りになる生徒。稽古場でもさり気なく反古紙の整理をする等、目配り気配りのできる面が素晴らしい。

美菜支部 小六 竹 林 春南



お習字は小学二年生からお稽古を続けています。六年生で初めて臨書展に出品、頑張った書きました。またテニスのクラブで活躍している春南さんです。

練馬支部 小六 末 弘 彩乃



学校では陶芸クラブに所属し作品作りに挑戦しています。書道の他にダンスの練習も一生懸命で、静と動がバランス良く成長している可愛らしい生徒です。

杉月支部 小五 中山 大輝



硬筆を苦手としていた大輝君はメキメキ腕を上げ美しい字を書きます。特に古典の臨書に興味を持ち、半紙に楽しく六文字を書いて帰ります。

美菜支部 小五 石原 明



お稽古は、お姉ちゃんと一緒に通って来ます。五年生になり家庭科が好きという明ちゃん、硬筆が得意、熱心に書きます。心の優しい少女です。



△漢字条幅▽ 評 柳澤 玄嶽

日下部耕山 重厚と軽快を併せ持ち、緊張感有り。

齋田昌静 求心力ある結体、リズム感有り。余白美佳。

三沢泰仙 墨痕あざやかで、印象に残る風格有る作。

上條賢山 齒切れのよい筆緻と力強い骨格が見事。

岡本秋麗 正しい筆遣いと伸びやかで流麗な線見事。

福田高苑 剛健な筆緻で貫通力があり練度高い作。

永田智翠 信山書法の基本点画を身に付けた秀作。

尾澤朋泉 写実に徹し、手本に忠実な真摯な姿勢佳。

△条幅随意▽ 評 大澤 梢光

硯 心 大胆な運筆で、終始一貫した作。

恭 光 渴筆が特にうまい。流れも自然でよい。

雅 幸 瀟洒な作である。更に線を強くしたい。

△通信条幅▽ 評 樋口 玄山

佐藤茜沙 強さ、明るさのある線で全体をまとめた。

小林真志 正しい筆遣いで安定感のある線、余白美有。

岩月彩紅 渴筆部の大胆さ大佳。



基本課題

評 柳澤 玄嶽

橋本幸楓 切れ味よし、筆の鋭い部分で軽妙に運筆。
 鈴木花仙 緊張感に溢れ、骨力充分重厚で深い線質。
 仲島秀峰 線質爽やかで、直線的で視覚性に富む。
 清武浄山 やや細身だが、詠士の中鋒が確立された。

研究課題

評 久保 妍山

杉本統華 重厚な線で、大胆な筆致で書かれた作。
 高橋太一 動きのある線で、伸び伸びとした作品。
 畔上肖栄 墨量豊かに力強く全体感良く書けた。佳。
 佐藤京香 濃淡の変化をつけてリズムカルに出来た。

古典課題

評 市澤 静山

中堤春里 字形は平たく左右の伸びが目を引く。
 大村玻玉 隸書の筆法が巧みで線が美しい。
 井上江静 整然と文字が配列され、線は重厚である。
 中島茜英 すっきりとした線が伸びやかで美しい。

師範部

△行書▽

評 山口 啓山

秋 麗 スケールの大きな作品で躍動感あり。
 納戸碧雲 独自の世界を展開して味わい深い。
 内川康瑩 線感覚良く流れが実に自然な秀作。
 雅 幸 六文字の調和が見事で安定感あり。
 霞 菫 芯のある線質で作品に強さを感じる。
 樋口志豊 写実に徹して造形の美が群を抜く。
 静 淑 インパクトの強い作品で線に豊かさあり。
 華 葉 落ち着いた連筆で動の中に静あり。



天 翠 書き込み充分で作品にスキなし。

東島陵光 余白美を生かし明るい作品に仕上げた。

涛 仙 効果的な滲みで雰囲気の良い佳作。

千 節 墨痕鮮やかで視覚性が大変強くて良い。

夕 紅 素直な運筆と心地よいリズムが印象的。

森 晨英 大胆な表現で気力もよく充実している。

向井伶那 手本に忠実で書への姿勢に真摯さ感ず。

中島泰志 腕法が安定し一点一画に伸びやかさあり。

△仮名▽

評 中村 巍山

竹 虹 格調の高い作品です。形・線質抜群。

松 沙 潤濁の変化に富み、明るく清らかです。

惜 春 形のとり方みごと。線にのびやかさあり。

谿 曄 豊かな線で統一され、流れが自然です。

泰 慧 漢字・かながマッチした妖艶さあり。

壺 水 信山流の仮名だ。直線で貫通力あり。

壺 桜 遅速緩急があつてリズムカルな作。秀作。

竹 心 やゝ小ぶりにまとめた。線に強さあり。

谿 沙 淡々と書いて涼風な心地よさを感じる。

壺 藍 大胆な筆致の中に繊細さあり。雄大だ。

茫 苑 メリハリがあつて流れ自然。さわやかだ。

花 瑤 芯のある強い線、緊張感漂う作だ。

中一 中嶋彩子 発揮	小二 ま王さ はるた	小四 小実 輝 の実り 秋	小六 莉子 虫鳴 庭	中三 細貝 詩音 秋空白 い雲
上尾小六 千田愛莉 仕事	小二 ま王さ ひろぎ	小四 若菜 遥 の実り 秋	小六 関口 晴 音 虫鳴 庭	中三 愛莉 秋空白 い雲
四年 佐藤 理世 家	小二 はと えりほゆみ	小三 三 れい子 いあ 空お	小五 岩下 真結 お昼 休み	中一 莉彩子 未来へ の夢
小二 原口 れいじ 力	小二 はと のどわこころ	小三 高橋 理彩 いあ 空お	五年 城本 悠 お昼 休み	中一 特待生 那珂咲紀 未来へ の夢

学 生 部

評 小 淵 石 峯

細貝詩音 美しい線で、形もよく整っている。

池上愛莉 線を直線的にして爽やかさを表現した。

鈴木莉彩子 文字の中心を意識して五文字の配置がよい。

郡司咲紀 力強く書けた。左右の払いも伸びやか。

牧野莉子 丁寧な筆の運びで文字も上手に書けた。

関口晴音 一点一画をしっかりと書き堂々としている。

岩下真結 太く書けていてすばらしい。名前も上手。

城本 悠 半紙一ぱいに大きく、立派に書けている。

廣瀬実輝 「ひらがな」のうまさ引き立っている。

若菜 遥 太く伸びやかに、上手に書けている。

福田麗子 お手本をよく見て、大きく書けている。

高橋理彩 文字の形がすばらしい。名前も良い。

松久温太 太いせんでしっかりと書けている。

藤井宗紀 せんをていねいにしっかりと書けた。

江尻はゆみ お手本をよくみて、かたちよく書けた。

野澤心結 うでを大きくうごかせてのびのび書けた。

半紙 随意

評 鈴木 草影

中嶋彩子 美しい線で形よく堂々とした作品です。

千田愛莉 ゆったりと大らかで伸々とした作品です。

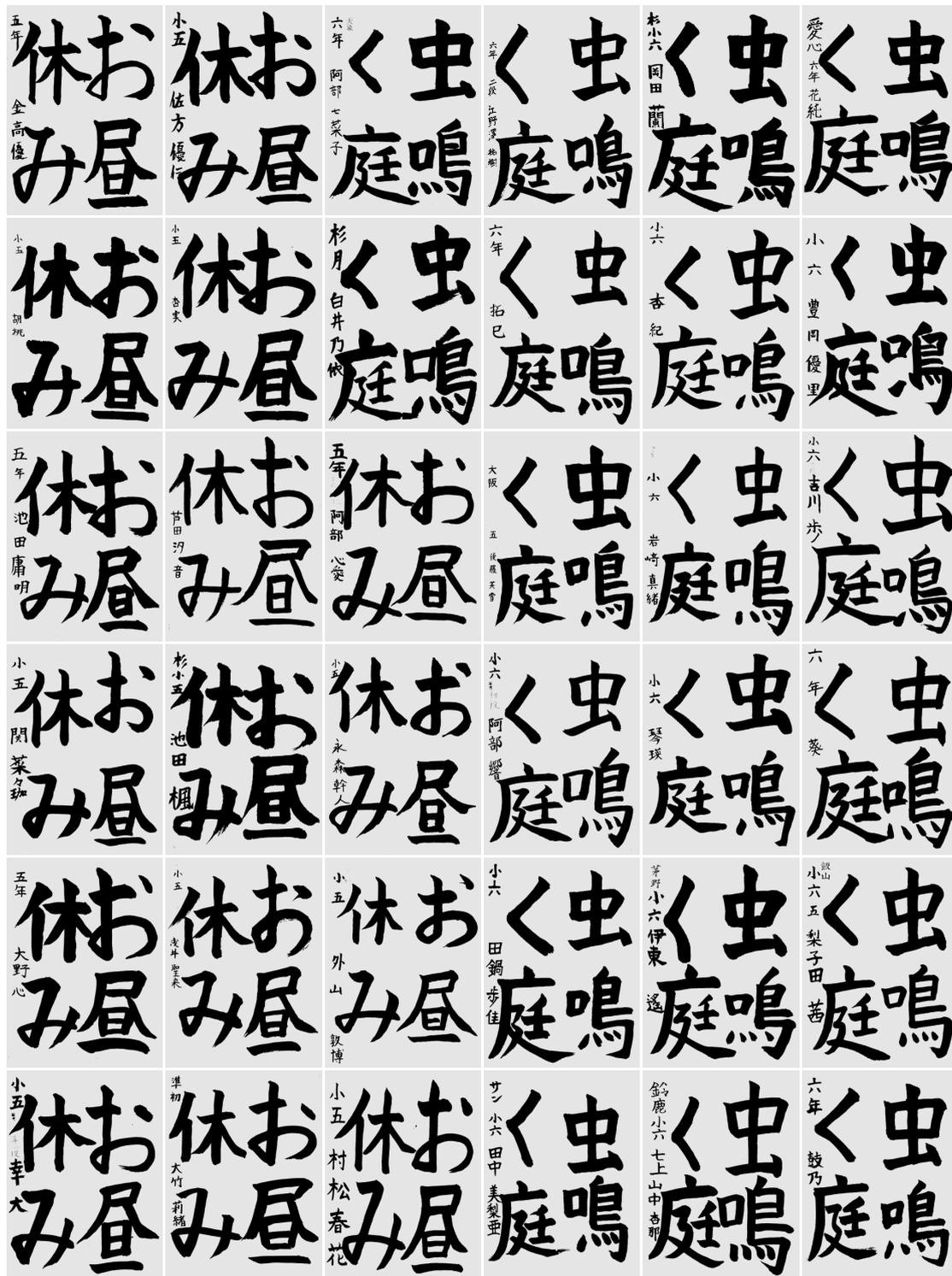
佐藤理世 形のとり方も線もとてもすばらしいです。

原口礼慈 力づよくどうとかけました。

このページに掲載された人には書象会より記念の筆をさし上げます。

		女級 廣瀬俊哉			
		五級 谷子			
		美菜 六級 笠原浩代			
		華雪 松井佑菜			
		玄狐七級 聡美			
		光丘 阿部香生			

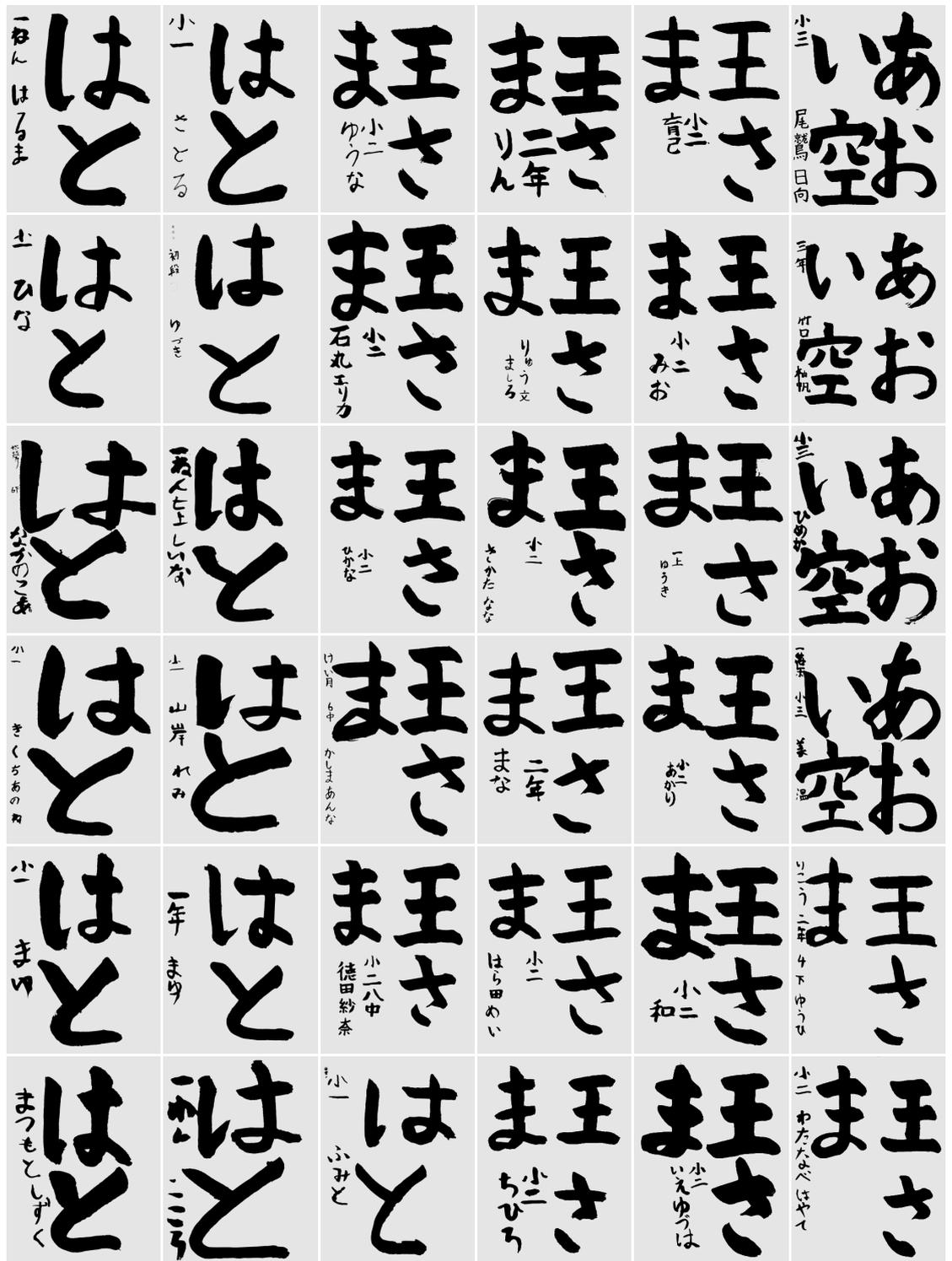
華雪	玄心	秀雪	個人	級位	大阪	長野	長峯	石峯	美生	四谷	梶友	横二	段位	柏心	横二	練馬	八戸	練馬	横二	飯島	山本	伊穂	山本	伊穂	段位	行書	
鈴木友美子	松本加代子	原田彩夏	安達眺峰		妹尾睦子	宮島節子	中條正祥	唐津由香里	鈴木久美子	渡辺瑠心	柏崎とみ枝	小田明雪		飯島盛雪	田島和光	鈴木和光	岩村真季	山本伊穂	湯本瑠奈								



華雪	硯墨	霞	この	みな	神奈	石峯	竹華	杉	珠紅	秀雪	城彩	飯田	中野	若宮	正桂	杉月	大象	サン	須坂	華雪	大阪	峰	み月	鈴鹿	茅野	玄嶽	北府	光丘	杉	みな	飯山	山愛	硯扇	長寿	愛心
鶴沼	大野	関菜々	池田	吉村	金高	大竹	浅井	池田	芦田	佐坂	保方	村松	外山	永森	阿部	白井	阿部七	田中美	田鍋	阿部	後藤	錦織	江野	山中	伊東	塚越	岩崎	小林	岡田	石川	梨子	武蔵	吉川	豊岡	小野
幸大	心	珈	庸明	胡桃	優	莉緒	聖来	楓	汐音	杏実	優仁	春花	敦博	幹人	心愛	乃依	菜子	梨亞	步佳	響	芙雪	拓巳	柁樹	杏那	遙	琴瑛	真紀	杏紀	蘭	乃茜	葵	歩	里	純	

小三 榎屋佳利 いあ 空お	三年二段 中山のら いあ 空お	土筆 小四 東島史竜 の実 秋り	四年 須野下田聖 の実 秋り	美希 の実 秋り	小四 古橋諒 の実 秋り
小三 藤澤蒼空 いあ 空お	小三 解良 桐仁 いあ 空お	小四 早坂勇樹 の実 秋り	小四 須山陽咲 の実 秋り	四年 山田柚衣 の実 秋り	孝花 の実 秋り
小三 福永彩良 いあ 空お	小三 れな いあ 空お	美菜 四年二段 桐芽 の実 秋り	小四 吉野麻奈 の実 秋り	真風 四年 八木夢斗 の実 秋り	小四 戸越晴夏 の実 秋り
小三 りくつま いあ 空お	三年 小林美咲 いあ 空お	小四 千咲 の実 秋り	四年 奈緒 の実 秋り	小四 紗幸 の実 秋り	一上 ゆうき の実 秋り
小三 遠太 いあ 空お	三年 永野結子 いあ 空お	小三 仲野心帆 いあ 空お	小四 浅野聖輝 の実 秋り	四年 乃亜 の実 秋り	四年 津三段 中本華花 の実 秋り
小三 咲良 いあ 空お	龍二 前住佳 いあ 空お	小三 千明五和 いあ 空お	小四 美鈴 の実 秋り	宮川 四年 初め の実 秋り	小四 吉川 の実 秋り

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 竹華 | 光丘 | 秀雪 | 和心 | 柏苑 | 虹苑 | 龍文 | 書之 | 平成 | 中野 | 玄黙 | 皓花 | 優生 | 八潮 | 小三 | 名東 | 美菜 | 房風 | 土筆 | 若松 | 中央 | 渚 | 練馬 | 秦野 | 美五 | 宮川 | 山愛 | 光丘 | 高風 | 湊 | 成城 | 玄黙 | 皓花 | 芙二 | 華雪 | 玄樓 | 霞墨 |
| 円谷 | 北川 | 鈴木 | 福永 | 藤澤 | 樋屋 | 市之 | 永野 | 小林 | 小平 | 解良 | 中山 | 千明 | 仲野 | 相川 | 上原 | 早坂 | 東島 | 青木 | 岩崎 | 浅野 | 吉野 | 須山 | 下田 | 蒲 | 森田 | 蓮尾 | 八木 | 山田 | 柚木 | 吉川 | 中本 | 安藤 | 戸越 | 玉井 | 古橋 | |
| 咲良 | 遼太 | 陵馬 | 彩良 | 蒼空 | 佳利 | 結子 | 美咲 | 滯奈 | 俐仁 | める | 五和 | 志帆 | 千咲 | 千咲 | 佑芽 | 史竜 | 美鈴 | 晃輝 | 奈緒 | 麻奈 | 陽咲 | 嘉斗 | なつみ | 乃亜 | 紗幸 | 秀斗 | 柚衣 | 美希 | のこ | 優希 | 晴夏 | 希花 | ノ花 | 諒 | | |



- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|----|----|----|
| 龍文 | 練馬 | 富貴 | 松聲 | 光丘 | 神奈 | 山愛 | 湊 | 蔵 | 皓花 | 芙二 | 有穂 | 華雪 | 【小一】 | 名東 | 溪月 | 有穂 | 純心 | 有虹 | 光丘 | 秀雪 | 花蓮 | 志摩 | 龍文 | 大田 | さわ | 一絵 | 蓮田 | 英二 | 水代 | 華雪 | 霞墨 | 李光 | 【小二】 | 一葉 | 源創 | 霞墨 |
| 松本 | 古侯 | 菊地 | 中野 | 古谷 | 佐々 | 曾我 | 山岸 | 山丸 | 牛丸 | 木村 | 今村 | 信吉 | 徳田 | 加島 | 佐山 | 石丸 | 渡邊 | 太田 | 原田 | 立花 | 阪田 | 西澤 | 高橋 | 伊得 | 金澤 | 原島 | 吉村 | 倉科 | 北尾 | 渡邊 | 飯塚 | 飯塚 | 内川 | 山岸 | 尾鷲 | |
| 雫 | 菜由 | あね | 心綺 | 陽菜 | 悠真 | 心結 | 真優 | 莉美 | 詩菜 | 優月 | 史都 | 紗奈 | 杏奈 | 陽奏 | エリカ | 優那 | 千依 | 芽依 | 愛菜 | 奈々 | 凛 | 華 | 和 | 朱璃 | 優来 | 実想 | 育己 | 颯心 | 雄飛 | 美温 | 姫果 | 日向 | | | | |

人にほろり、一瞬があらうらうらに、
はまた個性があらうら、美しい上手な
字を習う事によって美しい自己を作ろう。
野上 祐紀 金子 阿子

自分の意見を述べる時には、
内容を簡潔にまとめ、大きな
声で話をしよう。 中二 山本 蒼生
佐久間 愛唯

秋の社会科見学で、地元の公
共美術館に行き、すばらしい
絵画に感動した。 八編 六巻 四四
古内 亜香里

秋の社会科見学で、地元の公
共美術館に行き、すばらしい
絵画に感動した。 和風 五巻 二四
倉澤 こう

秋の社会科見学で、地元の公
共美術館に行き、すばらしい
絵画に感動した。 山安 六巻 五四
渡辺 百合菜

トノサマバッタは、体の
色がほご色になる場所に
すんでいます。 本 四巻 四四
三原 蒼生

雨がやむと七い
ろの大きなにじか
あらわれた。

人にほろり、一瞬があらうらに、
はまた個性があらうら、美しい上手な
字を習う事によって美しい自己を作ろう。
大阪 藤原 珠衣

自分の意見を述べる時には、
内容を簡潔にまとめ、大きな
声で話をしよう。 中三 大原
細野 夏歩

秋の社会科見学で、地元の公
共美術館に行き、すばらしい
絵画に感動した。 大印 宗介

秋の社会科見学で、地元の公
共美術館に行き、すばらしい
絵画に感動した。 小日比 夏凜

トノサマバッタは、体の
色がほご色になる場所に
すんでいます。 手島 四巻 四四
手島 りのん

トノサマバッタは、体の
色がほご色になる場所に
すんでいます。 書之 四巻 二四
河野 倉士

雨がやむと七い
ろの大きなにじか
あらわれた。

ぞくぞくした。この永続する不安定感
は探検がうまくいっている証拠なので
ある。角捨唯介のことば 梅田 衣美

自分の意見を述べる時には、
内容を簡潔にまとめ、大きな
声で話をしよう。 絵 中一 準七
梅田 あかり

秋の社会科見学で、地元の公
共美術館に行き、すばらしい
絵画に感動した。 桃 三上 桃絵果

秋の社会科見学で、地元の公
共美術館に行き、すばらしい
絵画に感動した。 神 寧安那

トノサマバッタは、体の
色がほご色になる場所に
すんでいます。 元 五巻 四四
上運 天奏

雨がやむと七い
ろの大きなにじか
あらわれた。

雨がやむと七い
ろの大きなにじか
あらわれた。

自分の意見を述べる時には、
内容を簡潔にまとめ、大きな
声で話をしよう。 中三
川口 菜々香

秋の社会科見学で、地元の公
共美術館に行き、すばらしい
絵画に感動した。 名 東 六巻 二四
長谷川 優

秋の社会科見学で、地元の公
共美術館に行き、すばらしい
絵画に感動した。 玄 藤 五巻 二四
村 道香

秋の社会科見学で、地元の公
共美術館に行き、すばらしい
絵画に感動した。 雅 小泉 瀬理香

〔硬筆〕

- 〔一般〕 皓花 金子 翔子
大阪 熊野 珠天
石峯 浦野 衣美
- 〔中学〕 有象 川口 菜々香
霞墨 佐久間 愛唯
東陽 細野 夏歩
一絵 梅田 あかり
- 〔小五・六〕 名東 長谷川 優
八潮 古内 亜香里
玄樸 大印 宗介
暁華 三上 桃絵果
- 〔小一・二〕 練馬 西田 祐成
若竹 戸田 知佐
虹友 田 知佐
秀雪 鈴木 暁斗
- 〔小三・四〕 山愛 渡辺 百合菜
華雪 手島 璃音
光丘 上運 天奏
杉 石黒 蒼葉
書之 河野 蒼士
- 〔小五・六〕 玄黙 下村 遥香
知床 倉澤 ころ
瑞祥 日比 夏凜
石峯 神澤 安那
小泉 瀬理香
雅 小泉 瀬理香
山愛 渡辺 百合菜

大象	中野	杉森	唯心	柏芳	杉友	游墨	練馬	志原	大野	産吉	杉森	若松	皓花	文南	有象	青雲	笠原	中野	美野	飯田	聖地	宮地	新地	玄耀	新橋	沙羅	高嶺	玄野	静野	華雪							
小翠	圭小	武村	眞原	今浪	成澤	長南	沖野	游真	井上	岩村	嶋田	湯田	尚華	坂腰	節眞	美濃	堀越	白紅	齋藤	服部	愛加	穴下	牛丸	重松	原誠	青林	川鍋	富崎	望中	中西	森清	染谷	井上	田川			
夏白	華横	瀨戸	瀬戸																																		
秀雪																																					
中西	高橋	熊谷	磯村	柴崎	門崎	高橋	塚部	阿部	丸山	石井	金井	森知	長川	久保	新保	藤平	安野	武居	須藤	落中	漆野	諏訪	中野	鶴岡	内野	佐池	山田	齋藤	後藤	濱川	酒井	坂野	金子	刈野	及川		
石谷	四谷	紅竹	美苑																																		
杉崎	高杉	吉岡	森田	安田	鈴木	小島	米田	高田	古原	稲見	成田	鎌田	江上	藤井	柳澤	熊野	長野	武居	須藤	落中	漆野	諏訪	中野	鶴岡	内野	佐池	山田	齋藤	後藤	濱川	酒井	坂野	金子	刈野	及川		
秀雪																																					
竹澤	青澤	佐藤	浦原	入江	清水	高橋	鹿島	下野	坂野	岸本	赤羽																										
光丘	大坂	竹平	小坂	石山																																	
友野	廣野	長野	山崎	唐津	佐藤	半田	高丸	漆田	豊田	安藤																											
霞雪	秀雪	有雪	長野	硯野	さわ	晴美	柏芳	有穂	笠原	八雲	神龍	大坂	飯山	赤澤	高柳	齊藤	千原	清野	仁藤	宇田	越谷	手塚	福垣	押見	松本	竹村	荒井	中野	高橋	小坂	成城	北原	上野	波多	井上	北原	
小林	宮島	加藤	村田	阿部	松山	山崎	野原	酒井	松田	落合	西澤	山崎	森田	細川	里川	一尾	藤井	服部	吉川	尾崎	近藤	有象	初野	箱田	豊田	鎌倉	片岡	関川	堀川	羽田	猿田	萩原	山崎	山崎	山崎		
凛城	大坂	華雪	赤石	水代	若松	光野	中野	特級	瀬戸																												
細貝	岩澤	李村	宮島	高橋	柴田	水野	野原	特級	瀬戸																												
若宮	大乙	船橋	竹東	文化	笠原	青雲	李光	須坂	小坂	大坂	華雪	一路	四谷	一尾	玄野																						
林池	松本	渡辺	佐藤	安藤	寺崎	鈴木	安藤	下野	安藤	佐藤	石原	鈴木	磯田	渡辺	唐澤	根岸	手塚	服部	宇田	関川	鈴川	佐藤	平井	門崎	工藤	出口	松本	湯澤	山崎	安部	古田	廣田	白子	白子	白子		
吉美	華那	硯野	晏野	北野	大坂	有象	游墨	蔵野	サン	中野	源代	船橋	東陽	笠原																							
上野	中野	本田	須崎	鍋島	安藤	西野	渡辺	関野	保坂	多田	寺崎	大坂	井上	倉崎	加藤	古田																					
光高	秀雪	游墨	ひま	花連	珠城	杉生	優生	柏芳	皓花																												
古湯	所田	廣野	未沙	豊原	野田	中野	林武	柳田	藤田	姚林	小池	秋山	今井	石田	渡野	長野																					
静和																																					
鈴山	福元	成瀬	桐原	神原	永沼	石崎	伊藤	亀井	真田	高田	上田	益田	大槻	須田	丸田	山崎	根岸	深川	水野	山崎																	
船橋	名東	照文	富象	有象	茅野	笠原																															
菊田	高下	木野	須崎	百瀬	玉尾	三宅	飯沼	宮原	三村	千野	池田	夏山	唐沢	嶋原	岩野	忍足	吉田	関野	玉井	山崎	安藤	許野	柳野	中野	湯田	岩田	中野	池田	高橋								
大阪	内藤	原光	産光	松代	珠城	高風	光丘	長野	山崎	一尾	杉生	文象	花城																								
手塚	沖野	古藤	濱野	尾崎	熊野	須崎	浅崎	宮崎	渡野	柳田	櫻田	北野	栗原	鎌田																							

□は写真版(昇級しない) ○は昇級(1階級昇級する) ☆は秀作(同段位で二回とると昇段する。ただし師範部は除く。)

Table with 10 columns and 10 rows of names and grades. Columns include names like 川崎真, 山崎翔, 酒井明, 宮澤柚, 梨子山, 山岸あ, 山崎あ, 山崎あ, 山崎あ, 山崎あ, 山崎あ. Rows represent different categories or groups.

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

Table with multiple columns and rows listing names and associated numbers. The table is organized into sections by group names, such as '志摩支部', '珠紅支部', '小光支部', etc. Each entry typically consists of a name followed by a number, often with a circled number or a specific symbol. The names are written in Japanese characters.

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

たけのこ・竹華・千曲・茅野・中央・長寿原・月・土筆・汀楓・照澤・中野・渚・練馬・柏心・蓮田・葉月・晴美・半田・光ヶ丘・聖・ひまわり・富貴・富士見

Table with columns for names, grades, and categories. Includes sections like 竹華支部, 茅野支部, 中央支部, 練馬支部, 光ヶ丘支部, 聖支部, 富士見支部. Each entry lists a name, a grade (e.g., 準一, 四段), and a category (e.g., 竹華支部).

Table with 10 columns and 20 rows of names and numbers. The table lists members of various clubs, organized by club name in the first column. Each entry includes a number (e.g., 1, 2, 3) and a name (e.g., 安藤優, 寺澤瑞, 松本由美). Some names are preceded by symbols like stars or circles. The table is a detailed roster for the 'Fuyumi' event.

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

入会案内

◎「書象」の入会希望者は、いつでも、どなたでも御入会できます。

◎入会手続きは、住所・氏名を明記し、誌代六ヶ月分（三ヶ月でも可）以上を添えてお申し込みください。

◎書象誌送付時、バーコード申請用紙を同封しますので、必要事項を記入し競書出品の際に一緒に提出して下さい。

◎送金の際、「新入会」「継続」の別を明確にし、何月号からと明記して下さい。

◎新入会員で書歴（他誌での段級位、書道展における成績）のある方は、相当段級に編入いたしますから、書歴と作品を本部へお送りください。（審査料一体につき一般部一〇〇〇円、学生部五〇〇円）

◎前納誌代は如何なる場合といえども、他の費用に充当、または返却いたしませんので、お含みおきください。

※以上の手続きは、個人会員の場合は直接本部へ、支部会員になられる場合は支部長に申し込んでください。

競書出品規定

◎出品部門の種類はつぎのとおり

〈小中学部〉

・毛筆規定
・硬筆規定

〔学毛〕
〔学硬〕

〈一般部〉

- ・随意〔学随〕
- ・楷書臨書規定（隔月）〔臨規〕
- ・行書臨書規定（隔月）〔臨規〕
- ・仮名規定〔仮規〕
- ・硬筆規定〔一硬〕
- ・漢字条幅規定（隔月）〔条規〕
- ・隷書条幅規定（隔月）〔条規〕
- ・条幅随意〔条随〕
- ・基本〔基本〕
- ・研究〔研究〕
- ・古典研究〔古典〕

※「書象」購入者は、すべての課題を出品できます。

※作品には、必ずバーコード出品券を作品の左下に貼付すること。（出品券なき場合は無効とする）

◎作品には、支部名（二字）・段級位（規定部）・氏名を明記すること。

◎規定部は、各部それぞれに段級位の、他の部門への転用はできません。

◎新規出品は、氏名の上に「新」と表示すること。

◎段級位のない規定部作品は最下位に発表することがあります。出品の際確認し、必ず明記してください。

◎基本・研究・古典研究・随意の各部門には段級位はありません。入選作のみ発表します。

※その他の注意

☆出品の際記入の段級位は、翌月号掲載の新しい成績にて出品し、その段級位で審査を受けるわけですが、出品までに翌月号がお手元に届かない場合は、現在までの段級位を書いて「要調」と必ず書き添えてください。（隔月課題はその必要なし。）本部で調査して、昇級していれば書き改めます。段級位に不正があった場合は、掲載後であってもとり消します。

☆多数まとめて出品するときは、部門別にまとめて出品してください。

☆今回出品の成績発表は翌々月号に掲載されます。一般部は部門別発表。小中学部については、支部会員は支部別発表、個人会員は「その他」の欄に発表されます。

☆締切日を厳守のこと。遅着の場合は掲載できません。

☆作品送付の際「書象〇月号競書作品在中」と朱書してください。

☆その他、展覧会作品あるいは昇段試験作品等の場合もその旨朱書にて明確にお示しください。本部は連日郵便物が満載になっております。整理に不手際のおきないようご協力下さい。又、郵便物の中に二種類の同封（例えば展覧会の作品と競書作品を同封すること）は絶対になさらないよう、くれぐれもお願いたします。



第36回 成田山全国競書大会

主催：成田山全国競書大会実行委員会
後援：中国大使館／読売新聞社

全国の青少年少女を対象に、第三十六回成田山全国競書大会は明春成田山で開催、特別賞受賞者が中国へ派遣されます。どうぞ奮って応募下さい。

▼出品受付—令和二年一月二十五日(土)～三十一日(金)
各地区提出先へ送ってください。

▽対 象—小学生(幼児は小一を含む)／中学生／高校生
▽作品種類—記載は標準寸法です。

〈小・中学生〉 半紙 33.3×24.3cm 美濃判は不可
条幅 68.0×17.4cm 小画箋半切四分の一
半紙 33.3×24.3cm 美濃判は不可

〈高校生〉 条幅 135.0×34.5cm 半切(大)

▽課題 自由 但し小学生は六字以内、中・高校生は字数も自由。
▽十一月下旬、応募要項で詳細を発表、従来の出品者にはお送りします。

▼書象会関係委員

実行委員……………田 中 節 山
関東地区実行委員……………市 澤 静 山
東京地区審査委員……………内 藤 望 山
事務局委員……………杉 山 曉 雲

▼お問合せ・お申込は：
〒二六〇〇二六 成田市本町五七三二一

成田山全国競書大会実行委員会事務局

TEL 047612412017
FAX 047612412084

◆書象誌代改訂のお知らせ

書象誌は消費税率の上昇と諸経費の増加に伴ない、誠に恐縮に存じますが、書象誌代を左記の通り改訂させていただきますことになりました。

一月号より 一冊六一五円 送料 一冊……八五円
なお、出品料は、なるべく誌代とあわせて現金納入をお願いします。

※十月一日より筆、基本帖、硬筆用紙等の代金および送料も変更となりましたので、お問い合わせ下さい。

〈有限会社「書象」〉

令和元年十二月一日発行(毎月一回一日)第六十七巻 第十二号 通巻七六九号

http://www.shoshou.com

定価六〇〇円 送料八二円

書象会便り

◆改組 新 第六回日展

〈特 選〉 山口啓山 波江皎雲 寺尾碩雲 中川汀松
〈入 選〉 恩田静月 藤森大節 宮本耕成 柳澤玄嶽
〈会 員〉 畑中高山 市澤静山 内藤望山
会 期 十一月一日(金)～二十四日(日)

※作品は、令和二年一月号に掲載予定
書象会関係は以下の通り

◆第82回謹慎書道展審査役職決まる

〈審査顧問〉 田中節山
〈審査副主任・審査進行〉 市澤静山
〈特別賞選考委員〉 田中節山 市澤静山 内藤望山
〈当番審査員〉 萩田光山 恩田静月 杉山窓影 鈴木春鳳
竹内青紗 露崎玄峯 内藤望山 畑中高山
樋口玄山

《書展予告》

☆吉見松香書展

「森鷗外の言葉をモチーフにして」
会 期 十一月二十五日(月) 十三時～十九時
二十七日(火) 十時～十九時
二十七日(水) 十時～十八時

☆檉の森書道展

会 期 十二月十一日(水)～十三日(金) 十時～十八時半
(十一日は十三時から、十三日は十六時まで)
会 場 松本市美術館 ギャラリーA・B

☆有象会学生書展

会 期 十二月十四日(土)～十五日(日) (十時～十八時)
会 場 武蔵野芸能劇場小ホール
代 表 田中節山
指 導 青木雪花 有馬花嵐 北井珠虹 鈴木虹苑
田中珠光 畑田穂苑 日比野照悦

《書展報告》

☆第70回福井県総合美術展

会 期 十月十七日(水)～二十二日(火)
会 場 福井県立美術館
FBC福井放送賞 小林 真志
入 選 岩井保乃歌 北川 高月 佐孝美也子
中本 裕子 山田 倭歌
〈こども展〉 銅賞 山崎 莉子
入 選 長谷川敬音

《書象会総会・新年会のお知らせ》

左記の通り開催いたします。
多数ご参加下さいませよう御案内申し上げます。
日 時 令和二年一月二十六日(日)正午～十四時三十分
会 場 京王プラザホテル5階
「コンコードボールルーム」
会 費 一五、〇〇〇円

※尚、新年会に先だち十一時より47階「あけぼの」にて授号式が行われます。

台風および豪雨等の被害にあわれた皆様に、
謹んでお見舞いを申し上げます。

この度の台風十九号から二十一号による豪雨・河川氾濫や浸水・住宅損壊等の被害にあわれ、困難に直面しておられる皆様方に心よりお見舞い申し上げます。
ご心労はいかばかりかとお察し申し上げます。一日も早い復旧と皆様のご健康をお祈り申し上げます。

氏名	発行人 (有) 書象
	代 表 上 條 節 夫
	〒東京都武蔵野市吉祥寺北町四一三二六
	郵便番号180-0001 電話〇四三二(五三)九七四三
	振替口座 〇〇一九〇一七二二五六九一
	振替名義 (有) 書象
	印刷所 株式会社 リンクス